NPO 法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会
〒260-0001 千葉市中央区都町 3-14-10
TEL/FAX:043-234-1206
E-mail jfsa@f3.dion.ne.jp
URL https://jfsa.jpn.org

会報64号 2024年6月

給食の時間　アル・カイールアカデミー第 8 分校

◆◇JFSA 会報ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ　ｲﾝｽﾀｸﾞﾗﾑもごらんください◇◆

JFSA 会報
ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ

JFSA
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ

JFSA
ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ

JFSA
ｲﾝｽﾀｸﾞﾗﾑ

【アル・カイールアカデミー近況報告】

海外事業担当事務局　依知川　守

5月7日、5月24日の2回、アル・カイールのサード氏にオンラインで聞きました

第4分校、新たな場所での開校に向けて

２０１５年10月に開校した第４分校には60名程の生徒が通っていました。しかし借りていた校舎の家主が５年程前に、建物を売却してしまったため、閉鎖せざるをえませんでした。

一方、同じく２０１５年10月に元々廃校状態だった公立学校の校舎を使い開校した第５分校は、生徒数の増加により上級生は屋外で授業をしている状態が続き、学ぶ場所の確保が課題となっていました。

第５分校
屋外で授業中

閉校した第４分校
2015年当時

その為、アル・カイールは、第５分校から徒歩５～10分の所に数年前に確保していた土地に、新たな分校を建てる事を決め、５月初旬に着工しました。この分校はかつての場所とは異なりますが、再び第４分校と名付け、約８ヶ月後の開校を目指しています。開校すれば、約４００名の生徒が学べる分校となる予定です。

現在は土地の境界線の塀の工事が完了し、建物の基礎工事を進めています。

工事をすすめる労働者たち（中央右がサード氏）

基礎工事中の新しい第４分校

本校・分校での工事

本校のリノベーション工事が完了しました。韓国のハンサリム生協による支援(※)で、新たな教室とスタッフルームを作り、また各教室に窓を設置しました。

本校　窓にガラス戸がつけられた教室

※ハンサリム生協は、古着等の回収に取り組み韓国の国内で協力業者に販売、その売上からアル・カイールへの支援を継続しています

第2分校では3つの教室を新たに増築しています。これまでは子どもたちが床に座って授業を受けていましたが、椅子と机が設置されました。図書室も作っているそうです。

第3分校は残念な事に昨年7月、夜間に強盗に襲われました。その際は学習用のコンピューターや金属類など多くの被害が出ました。事件後には警備員を置くなどしてきましたが、防犯対策として分校全体を囲む塀を更に高くする工事が行なわれています。

第3分校　学校を囲む塀を高くする工事中

第3分校　工事前の塀の高さ

試験の実施と生徒たちの進路

5月初旬に校内一斉の学年末試験(10日間)が行なわれました。9年生、10年生はこの試験の後に州政府による試験を受けます。

10年生(マトリック)を修了した男子生徒は、工場で働いたり、電気技師、空調技師になる生徒が多いそうです。しかし、10年生の手前で中途退学した生徒が工場などで仕事を得ようとする場合は、直接雇用ではなく中間に人材派遣業者が入ることで手取りの給料が少なくなるケースもあるとのことです。

アル・カイールはカレッジまでありますが、カレッジを卒業すると、所謂オフィスワークなど選べる仕事の幅が広がるそうです。そして更に大学進学を目指す生徒の成績上位10名には、予備校の学費を援助しているそうです。

校内一斉の学年末試験

その他

・カラチにはＩＴ(情報技術)の専門学校が各地にありますが、学費が高くアル・カイールの生徒が通う事は困難です。現在本校にはＩＴコースがありますが、いずれはＩＴの学校を作りたいと考えています。

・今年の2月頃に行なった、スラム地域の住民への引き売り用の屋台や内職用のミシンなどの物品供与の支援(※)を、6月8日に再び行う計画をしているそうです。

今回も事前にアル・カイールの調査チームが家庭訪問を行ない、１５６家族に支援を予定しています。既にその業種で働いている人を対象として、課題解決を目的としています。前回の実施後に行なった家庭調査では、9割以上の世帯の家計が改善したそうです。

※支援の費用は、前回と同様にアメリカのＮＧＯからの寄付を資金とします

今年2月の支援　屋台を受け取る親子

スナック菓子の露店
アル・カイールアカデミー本校前

引き売りや露店販売に使う屋台は、本人が所有している場合と借りている場合があります。借りていればその分借り賃がかかり収入が減ります。アル・カイールアカデミーに通う子どもたちの親がしている仕事のひとつですが、4月ごろから気温は40度を超す日が増えてきて、屋台での販売は体力的にも負担の大きい仕事になります。

アル・カイールアカデミー　子どもたちの食事

アル・カイールアカデミーでは、家庭の事情により家で食事をとれない子どもたちの給食を作っています。給食についてムザヒル校長に聞きました

給食はいつから始めたのですか？

アル・カイールは１９８７年に数名の子どもたちと私で始めました。翌年には生徒の数が 50 名ほどに増え、私以外に教師が 2 人になりました。当初、私たち教師は食堂で昼食をとっていましが、食堂でお金を払って食べるより、調理する人を雇った方が子どもたちも一緒に食べられるし良いと考えました。そこで教師の 1 人に相談した所、夫を亡くして子育てしているローシャンさんを紹介されました。彼女に手作りの料理を作ってもらうことで給食は始まったのです。

当初はどんな様子でしたか？

最も貧しい子どもたち数名と一緒に給食を食べました。彼らはいつもお腹を空かせている状態だったのです。食事は豆や野菜のカレーとチャパティ(全粒粉を捏ねた平焼きのパン)でした。年を重ねる毎に給食を必要とする生徒も増えていきました。

学校にとって、給食はどのような存在でしょうか？

イスラムでは、食事に困っている人に提供する事は最も重要な行為とされています。ただ、私は食事を食べる人との関係を作らずに一方的に提供し続けるということは、危険な事だとも感じています。施しを受ける人々の暮らしは一向に変わらず自分に自信を持つ事ができません。施す側の人との距離や格差は開いたままで、依存状態が生まれてしまいます。

学校では生徒たちと家族のような関係を築きたいと考えています。給食を一緒に食べることを通して友情を結ぶ事や、互いの暮らしぶりや問題を理解し合う事が大切です。その意味では、給食はコミュニケーションの源と言えるでしょう。

▼セントラルキッチン(中央給食室)の新設準備

今は本校の給食室で全て作っています（本校と第２分校は毎日、第３、第６、第８分校は週に２日）現在新たに第８分校のそばに大規模なセントラルキッチンを建築中で、第２、第３、第８分校の給食を作る予定で、生徒１０００名以上に対応できるそうです。内装工事が進められていて、７月中旬のオープンを目指しています。

右がローシャンさん

皆から「ブーア（仕事をする人）」と呼ばれ親しまれています

左はザヒッドさん

給食の思い出を聞きました

ザヒッドさんはアル・カイールの卒業生。現在は学校でスタッフとして働く傍ら、アル・カイールを支援するＰ＆Ｊカンパニーでも仕事をしています。兄弟たちと暮らしていて、５人の姪と1人の甥がアル・カイールに通っています。ザヒッドさんも学校で給食を食べていました。

あなたとアル・カイールとの出会いを教えてください

私の父親は大工でした。小さい頃、家族は今よりもずっと貧しかったのを覚えています。父は麻薬を使っていて、私たち兄弟の教育には全く関心がありませんでした。母がアル・カイールで仕事をすることになり、学費や学用品などが無償で学べることを知りました。そして父を説得して私たちはアル・カイールへ入学することができたのです。父は心臓麻痺で 12 年前に亡くなりました。

在学中に給食を食べていましたか？

はい、毎日食べていました。当時は全校生徒の 30 %位、そして先生たちも貧しい人が多く、皆で給食を食べていたと記憶しています。

当時の給食はどのようなものでしたか？

普段は豆や野菜のカレーなのですが、週に2回は肉のカレーの日がありました。手作りなのでとても美味しく、嬉しかったです。また給食の時は友達も一緒でしたので、とても楽しい時間でした。給食を食べる生徒は１００名以上いましたから、私は当時3人いたボランティアメンバーの一員としてダスタルハーン(食事の時に床に敷くテーブルクロス)を敷いたり、水や料理、食器を配膳する手伝いをしていました。

給食を食べる生徒はどのように決めているのですか？

当時も今もそうですが、担当の教師たちが生徒の家族の経済状況を調査して決めています。

自宅では昔はどんな食事でしたか？また今はどのような食事ですか？

子どもの頃は、朝食はチャイ(ミルクティー)とラスクという事が多かったです。ラスクは食パンより安いのです。夕食は基本的に豆や野菜のカレーとチャパティで、肉のカレーは月に2回程度でした。今は、朝食はチャイと前日の残りのカレー、子どもたちにはゆで卵と温めた牛乳も出しています。夕食はジャガイモとひき肉のカレーなど、肉を使う頻度は増えました。

洪水被災復興支援報告

カンパ総額:1143 万 8680 円(個人の方 604 人　団体 17)

2022 年 8 月　大洪水が発生し、国土の 3 分の 1 が水没し 700 万世帯が被災　アル・カイールアカデミーが被災地域を訪問し緊急支援を開始
2022 年 11 月　JFSA 理事 1 名、事務局 1 名を現地に派遣
2022 年 12 月　20 軒の住宅再建費用としてカンパ金 300 万円（※）をアル・カイールアカデミーに送金（※2010 年の洪水被災復興支援カンパの残金）
2023 年 5 月　30 軒の住宅再建工事が終了（JFSA からの支援で 20 軒、アメリカの団体からの支援で 10 軒）
さらに 90 軒以上の住宅再建のためにアル・カイールアカデミーから支援の要請を受ける
2023 年 6 月　JFSA がカンパ活動取り組み開始
アル・カイールアカデミーは被災地に継続して訪問し、人々との信頼関係つくりながら生活に必要な支援について協議を重ねる
2023 年 8 月　JFSA 理事 1 名、事務局 1 名を現地に派遣
2024 年 3 月　カンパ金のうち 500 万円を住宅再建費用としてアル・カイールアカデミーに送金（使途は下表）

2024 年 3 月 JFSA より 500 万円
909 万 3,288 ﾙﾋﾟｰ（1 ﾙﾋﾟｰ≒0.55 円）

	単位：ﾙﾋﾟｰ
鉄骨、ドア、窓枠等	3,008,280
水のタンク、	309,400
トラックレンタル	75,000
移動・滞在費	56,500
支出合計	3,449,180
残高	5,644,108

アル・カイールスタッフの支援チームのアサドさんに現状を聞きました

▼現地にはどのくらいの頻度で訪問しているのですか？

この半年に 12 回訪問していますので、およそ 1 ヶ月に 2 回の頻度です。最近では 5 月中旬に訪問しました。

▼現地ではどのような活動をしていますか？

ラマザーン(断食月)には食糧支援も行ないました。それ以外は毎日彼らと共に過ごして村人との信頼関係を作りながら支援活動を行なっています。資金的に村人全員の家を再建することはできませんので、どの家族の家を建てるか、慎重に調査や話し合いをしています。5 月の訪問時には金属製の扉や窓などの資材をカラチで購入してブンド村に届け、別の被災地シヤル村でも再建工事を開始しました。

▼現地の村は今どのような様子ですか？

今の時期は気温が 48 度位まで上昇します。まだ家が再建できていない家族は非常に暑い中での暮らしを余儀なくされています。約 20%の村人の家にはソーラーパネルと扇風機がありますが、それ以外の家には電気が全くありません。支援を初めに行なったブンド村では、一番の問題は水です。そのため私たちは隣接する村から水を引くために井戸掘り工事の契約を交わし、365m のパイプを購入して工事を始めたところです。農業については洪水前と同様に小麦と米の 2 毛作が再開されていますが、政府が小麦の価格を下げたため（※)、その皺寄せが村人に及んでいます。

※パキスタン政府は小麦の価格安定政策として収穫量の 20%（2023 年の収穫量を基準にした場合約 560 万トンになる）を買い上げてきましたが、安価な外国産小麦の輸入を増やして今年は買い取り量を 200 万トンにすると発表しました。そのため小麦の市場価格が暴落し、農民はあてにしていた収入が得られない状況になっていると伝えられています。

田植えをする村人たち

再建中の家屋

水を引くパイプの工事

▼家の再建工事はどのように進めているのですか？

私たちは 1 軒の家のために 3 名の職人を手配する事を村人と約束をしています。工事には人手として 5 人は必要なので、家族の夫婦や、時には子どもたちも手伝う必要があります。家族が病気などで人手が足りない時は近所の人が手伝うこともあります。

▼アサドさん自身はこの支援活動をどのように感じていますか？いちばん大切なのは、被災地の村人と私は平等であるということです。言い方を変えれば自分の事のように彼らについて考える必要があります。彼らの人生がより良くなる事が私の願いであり、日本の皆さんが集めてくださった支援金を彼らのためにしっかりと使うことが私たちの役割です。私は、支援と称して一方的に与え続けるのは危険だと考えています。被災者自身も努力し、彼らと協力しあう関係でありたいです。

アル・カイールアカデミー第２分校（カチラクンディ校）の教室

بیٹھنا

すわる

座る

ベエトナー

民族衣装カミューズシャルワールの生地の店（カラチ）

アル・カイールアカデミー本校　迎えに来たお父さんのバイクと子どもたち

フォトギャラリー

陶器の壺を作る職人（カラチ）

第 84 回コンテナ送り出し報告　パキスタン

2024 年 2 月 15 日積み込み　　積み込み重量：23,278KG
2024 年 4 月 5 日　古着卸売業者ニアーズ氏の倉庫に荷下ろし

パキスタン政府はドルの外貨準備高の減少のために輸入規制を行ない、第 79 回送り出し（2022 年 9 月 29 日実施）以降、パキスタンにコンテナを輸出できませんでした。2024 年になって規制が解除され、今回は約 1 年 5 か月ぶりとなる輸出になりました。パキスタンに輸出ができない間、第 80～83 回はタイにコンテナを輸出し、WAS アリ・シャー氏の協力の下、タイでの需要の把握と販路の開拓を進めてきました。輸出先を複数化したことで、パキスタン、タイの需要に合わせて、アイテムを選定し輸出できるようになりました。今回は、長年の課題だったパキスタンで需要の低い女性用衣類（カットソー、ブラウス、ワンピース、＊スカート）はタイ輸出用として送らずに、需要の高い毛布等の寝具類、下着類を沢山積み込むことができました。＊スカートは回収していませんが集まっているものです

通常、積み込み日程は一ヶ月程前に調整しコンテナの予約の手配を行ないますが、今回は急遽 3 日前に決定しました。パキスタンの輸入規制解除後、新たに事前に輸入許可が求められるようになりました。その申請手続きが順調に進まない状況が続いていましたが、ようやく P&J カンパニーのカユームさんから輸入許可が下りたと一報が届き、いつまた規制が行なわれるか分からない状況のため、直ぐに実施する決断をしました。偶然、コンテナのキャンセルが出て予約が取れるという幸運もあり、直前の呼びかけにも関わらず、積み込みボランティアには千葉ダルク、あうん、大地を守る会などのみなさんが参加し、無事に満杯にすることができました。

第 84 回コンテナ積み込み後の集合写真

第 85 回コンテナ送り出し報告　タイ

2024 年 4 月 25 日積み込み　　積み込み重量：21,127KG
2024 年 5 月 14 日　タイ・ラッカバン港到着

2023 年 10 月に事務局のタイ派遣を行ない、タイの需要に沿った種類分けの見直しを行なって以降、初めての輸出となりました。以前より種類分けを細分化しアイテム数を 20 種類増やしました。また、イベント回収企画で集めたぬいぐるみとアクセサリーも輸出しました。今回の積み込みには毎回協力頂いている団体、個人の方々に加え、淑徳大学の学生さん 7 名（淑徳大学にはボランティア関連の授業の講師に呼んでいただいています）、お店のお客さま 2 名（20 代）も参加しました。フレッシュな方々含め、いろいろな方が一堂に会し一緒に積み込みをする喜びを感じながら臨むことができました。

千葉ダルク職員のクニさんに積み込みに参加した感想を寄せていただきました

『ボランティア活動』

私は毎週金曜日、JFSA の古着仕分けボランティアに参加しています。日々の活動の中で、今まで感じた事のない喜びや様々な学び、人とのつながりを感じています。私は現在、薬物依存と言う病気と向き合う生活を千葉ダルクと言う施設で送り、日々、私の問題と向き合う生活をしています。施設のプログラムのひとつである JFSA のボランティア活動は、私にとっては楽しみな活動です。先日 4 月 25 日にコンテナの積み込みに参加しました。身体的には楽ではありませんが、それ以上に人とのつながりに喜びを感じられます。ボランティアを通して私自身、今後の社会復帰に向け、とても勉強になっています。また、積み込みの楽しみとして、他のボランティアのみなさんに作ってもらった「パキスタンカレー」を一緒に作業した仲間達と食べるのは格別です。また次回も楽しみにしています。

第 84 回コンテナ到着報告　パキスタン

パキスタン・カラチ港に到着したコンテナは、P&J カンパニーから古着卸業者ニアーズ氏に販売され、4 月 5 日にニアーズ氏の倉庫で荷下ろしされました。状況を P&J カンパニーのカユームさんに聞きました。

Q.久しぶりのパキスタンでのコンテナ輸入となりましたが、何か問題はありませんでしたか？

以前のようにスムーズに輸入手続きが進まないため、港から搬出できず超過保管料がかかりました。政府機関がちゃんと機能していないためです。

Q.パキスタンの古着マーケットの状況はいかかでしょうか？

世界中で古着の需要が高まっており、パキスタンで仕分けされ、より高く売れるアフリカや東南アジアに輸出される動きが強まっている。そのため、パキスタン国内で販売されるものはグレードの良くないものが増えています。

Q.今回はパキスタンで需要の高い寝具類や下着類を沢山送りましたがいかがですか？

東南アジアでは需要が低いですが、パキスタンでは需要があり、欲しい卸業者は沢山います。沢山あればあるだけ売先はあり収益に結びつきます。

Q.今回のコンテナは 1 KG 当たり 185 ルピーでニアーズ氏に卸売りし、粗利益は 152 万 845 ルピー（5/22 時点 1 パキスタンルピ≒0.56 円）でしたが、いかかですか？

経費は以前より上がっていますが、利益が出て良い結果です。今はニアーズ氏にコンテナ丸ごと 1 本卸売りしていますが、JFSA の品物を欲しい卸業者は他にもいるので、より高い収益を得られるように売先を広げていきたいです。今は複数の業者とコンタクトを取りそのための準備をしています。

パキスタンに到着したコンテナ

ニアーズ氏の倉庫

千葉ダルクのメンバーと
JFSA スタッフ

パキスタンカレーの昼食　おかわり自由！

第 85 回コンテナ積み込み後の集合写真

ボランティア参加した淑徳大学の学生さんたち

『バザール報告』

東葛センター担当事務局　田邉　航太郎

２０２４年５月６日、東葛センターで年に２回(５月、11月)主催するお祭り、『ＢＡＺＡＡＲ(バザール)』を実施しました。再開以来、３回目になります。今回も近所のＪＡいちかわ田中支店さんから来場者向けに駐車場をお借りしました。長期の天気予報からずっと外れなかった雨マークが開催前日に外れ、当日は５月らしいさわやかな天気となり、連休最終日のこの日は多くの来場者を迎えることができました。

イベント内容は大きく分けて３つです。まずは東葛センター内にブースを設けて出店してもらう飲食店とフリーマーケットです。飲食店はいつもお世話になっているご近所の町中華、『東陽』さんと、以前東葛センターに勤めていたスタッフが退職後働いていたコーヒー販売で同僚だった方の開いたコーヒーショップ『ＳＴＲＥＥＴ　ＣＡＦＥ』さんです。来場者へほっと一息を提供してくれました。どちらも盛況で主催側としてもほっとしました。フリーマーケットでは普段東葛センター内の古着ショップｋａｐｒｅ(カプレ)を利用してくれている馴染みのお客さんに、今度は売る側に回って出店してもらいます。また、現スタッフ陣川とのつながりのある『ＨＡＬＯ　ＨＡＬＯ　ＲＥＣＯＲＤ』さんは、レコード販売されるのと一緒に『ささきなそのロックンロール似顔絵』ということでレコードのジャケット風の似顔絵で参加されました。大変好評でイベント終了時間前に締め切りとなっていました。

次に、Ｐ＆Ｊカンパニーから輸入したタペストリーをリメイクしたバッグやパンツの展示販売です。ＪＦＳＡは古着を輸出するだけでなく、パキスタンに集まる世界中の古着や様々な雑貨類を彼らを通じて輸入することで、その収益から学校の運営資金を作る活動もしています。普段から現地でリメイクの素材になるようなものがあれば写真を送ってもらい、それを見ながらスタッフで相談しています。形になったものをお客さんが手にとってくれているのを見るのはとても嬉しい瞬間です。

最後にｋａｐｒｅのセールです。イベントが盛り上がるように当日までできるだけ準備します。輸入古着の中でも希少な、人気のヴィンテージ品も並びます。インターネットの普及でパキスタンにも情報はたくさん入っていて、日本やアメリカ、ヨーロッパ、タイなどで人気のヴィンテージ品はあちらでも高値で取引されていて、Ｐ＆Ｊカンパニーでも少し取り扱っています。

バザールは、普段のつながりと現在自分たちができることを活かしたお祭りだと思っています。これからも大切に続けていきたいと思っています。

レコードジャケット風似顔絵

タペストリーのリメイクバッグ

タペストリーのリメイクパンツ

「日常風景の中から」

国内事業担当事務局　大橋　紀子

ショップ前には買い物にきたお客さんがちょっと休憩できるようにと、椅子とテーブルを出しています。お客さん以外にも通りがかりの方や、チラシ配り途中の方なども休憩場所に利用して下さっています。コロナ禍以前は、そこにお茶が入ったポットを置き、夏は冷たいお茶、冬は暖かいお茶をセルフサービスで飲めるようにしていました。

先日、お店に買い物にきてくれた大学生くらいの男性が声をかけて下さり「小学生の頃前の公園でよく遊んでました。その時いつもこちらでお茶をいただいていました。あの時はごちそうさまでした！」と、お礼の言葉をいただきました。その言葉を聞いた時に、夏休みの暑い日にも公園で元気に遊ぶ子どもたちの姿が蘇ってきました。

ショップの目の前は公園のため、放課後や休みの期間は小学生がたくさん遊びにきていました。公園で遊んでいる子どもたちが「お茶くださーい」と大きな声でお店に声をかけて、お茶を飲んでいく姿は日常的な光景でした。こちらも、「使ったコップはちゃんとゴミ箱に捨てるんだよ！」とか、「お茶がなくなったらお店の人に言ってねー」など声をかけ、子どもたちの様子を気にかけながら営業していました。現在、公園は3年以上工事をしていて立ち入れないため、そんな風に子どもたちが行き交う風景を思い出したのも、とても久しぶりのことでした。

この千葉センターを「地域に開かれた場」にしたいねと、センターで働くメンバーの中では言葉としてはよく出てきますが、具体的には何をしたら良いのかと、いつも難しく考えてモヤモヤとしてしまいがちです。しかし、具体的にはまさにこの子のような存在の子がいることが、地域に開かれた場ができているということではないか、と感じています。彼にとって、ここでお茶を飲んでいたことは特別なことではなく、日常の一部であり、何年経っていても自然とお礼の言葉が出てくるような、そんな存在にこの千葉センターがなっていたことがものすごく嬉しかったです。

公園の存在が千葉センターと一体となって、場を作る役割の一部を担っていたと言っても過言ではないでしょう。しかし、公園が使えなくても人の魅力や場の魅力を通して開かれた場を作っていける力をつけていきたいものです。そしてそれは、こんな場を作るぞ！と意気込んで作るものではなく、日常の積み重ねの中から自然とできていくように、色々なところにアンテナを張ったり、タネを撒くことを止めてはいけないなと思っています。

千葉センター古着ショップ
CHARKHA BAZAAR（チャルカバザール）
道路の向こうが公園（今は工事中）

ＪＦＳＡのイベント回収　企業・学校・NPO などの回収

ユニモちはら台

イオンスタイル幕張ベイパーク

パルシステム茨城　栃木みとセンター

幕張インターナショナルスクール

おもちゃ図書館カフェサンタ

千城台高校

ＪＦＳＡでは、イベント回収や協力団体企画、企業、学校、ＮＰＯ団体による回収など、いろいろな回収のかたちにも取り組んでいます。

●イベント回収　地域のコミュニティスペースやショッピングモール、協力団体の施設などで日時を決めて行なっています。近所の方たちが参加しやすいメリットがあります。回収に参加する人たちに会って、直接に意見や質問をいただいています。

●企業や学校、ＮＰＯ団体での回収　社員や生徒、地域の人たちに呼びかけて回収していただいています。ＪＦＳＡから情報が届けられない人たちにも回収の情報が届けらます。「やってよかった！」という声もいただいています。

2024 年 1 月～5 月では、こうした回収で 12 トン以上集まりました！

持ってきてくださる皆さんと出会って意見や質問をもらいながら“古着のゆくえ”の情報をお伝えできるように、こうした回収の機会も増やしていきたいです。

千葉日産　（すぐご近所です！）

←フェイスブックの
QRコード

このほかにもフェイスブックでご紹介しています　ぜひごらんください！

■□2023 年度（2023 年 10 月～2024 年9月）の正会員・支援メンバーを募集しています

NPO 法人 JFSA の会員は次の2種類です。

1.　会員（正会員）この法人の目的に賛同して入会した個人または団体

2.　支援メンバー　この法人の目的に賛同し、賛助の意思を持つ個人または団体

【2022 年度　正会員　個人：181 名・団体 11　支援メンバー　個人：1220 名・団体 8】

会員・支援メンバーの方には、会報（年3回）、古着の回収のお知らせ（年3回）、サポーターグッズ（年1回）をお送りします。正会員の方には総会議案書（年1回）もお届けします。

●年会費（10 月～翌年9月末）

個人：会員 5,000 円　／　支援メンバー2,000 円

団体：会員 50,000 円　／　支援メンバー　10,000 円

●会費振込み口座（郵便振替）

番号：00160-7-444198　口座名：JFSA

※活動への寄付にも同じ口座がご利用できます。通信欄に「寄付」とお書き添え下さい。

◆JFSA の会報のバックナンバーをご覧いただけます◆

ホームページのトップページ中央

「JFSA のニュースレター（会報）」より

お進みください。ご希望の方には郵送もできます。

◆会報についての感想やご意見をお気軽にお寄せください◆

JFSA までメール・お手紙でお送りください。

jfsa@f3.dion.ne.jp

こちらのQRコードを読み取っていただくとメール作成画面になります